

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
麻生情報ビジネス専門学校		昭和60年12月24日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南2-12-32 (電話) 092-415-2291															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999															
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士														
工業	工業専門課程	ネットワーク・セキュリティ科				平成15年 文部科学省告示 第14号	-														
学科の目的	ネットワークエンジニアの育成を目指す。インターネットに代表されるネットワークの設計／構築／運用／保守に必要なスキルを学習する。																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
3年	昼間	2730時間	3094時間	1124時間	0時間	0時間	0時間														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
90人 (在籍は2-3年生のみ)		64人	2人	2人	3人	5人															
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日 ■後期: 9月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テストなどの総合評価																
長期休み	■夏季: 8月11日～9月1日 ■冬季: 12月21日～1月7日 ■春季: 3月1日～3月31日			卒業・進級条件	1. 指定科目全ての修得 2. 学年の出席率90%以上 3. 卒業基準検定の取得 4. 学生としてふさわしい生活態度																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談、保護者への電話連絡及び面談(ガイダンスの実施)			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報)																
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 情報サービス業			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CCNA R&S</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CCNA R&S	③	20人	15人	ITパスポート	③	20人	12人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																
	CCNA R&S	③	20人		15人																
	ITパスポート	③	20人		12人																
■就職指導内容 ・面接指導 ・履歴書作成指導 ・業界セミナー開催			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																		
■卒業者数 : 20 人			■自由記述欄																		
■就職希望者数 : 19 人																					
■就職者数 : 19 人																					
■就職率 : 100 %																					
■卒業者に占める就職者の割合 : 95.0 %																					
■その他 ※上記数値は平成30年度コンピュータネットワーク科の実績																					
(平成 30 年度卒業者に関する 令和元年5月1日 時点の情報)																					
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成30年5月1日時点において、在学者87名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者84名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 他分野への進路変更			■中退率 3.4 %																	
■中退防止・中退者支援のための取組 入学説明会での職種およびカリキュラムに関する説明、定期的な面談																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																				
当該学科のホームページURL	URL: http://www.asojuku.ac.jp/abcc/subjects/cn/																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教員が定期的に企業訪問を行い、IT業界の動向や即戦力育成のために必要となる知識や技術などを把握する目的で企業に所属しているエンジニアに対して業界動向や新技術のヒアリングを実施する。さらに、当校での就職をサポートしている部署が企業に対してアンケートを実施し、それらの結果を元に、授業科目の開設・変更・廃止に関する検討を行う。カリキュラム会議で授業内容や方法に関して話し合い、カリキュラム案を作成、教育課程編成委員会で(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項(3)教科書・教材の選定に関する事項(4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項に関して、各方面からの意見を集約し承認を得て授業科目の開設や方法の改善としてまとめる。使用するハードウェアやソフトウェアに関しては、授業運営を実践するために必要となるものを準備して効果的に授業を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校内部の組織として、カリキュラム会議を運営し、カリキュラムのベースとなる案を作成する。
企業等の委員を含めて構成された教育課程編成委員会では、前年度の学科の運営状況とカリキュラム会議で作成したカリキュラム案を元にカリキュラム改善に向けた意見を策定する。
教育課程編成委員会での意見を踏まえてカリキュラム会議を再度実施し、新しいカリキュラムを検討し確定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	①
高岡 宏光	三井情報株式会社 西日本営業部 西日本営業第三室 室長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
白根澤 信孝	ユニアデックス株式会社 九州エクセレントサービス第二統括部 システムサービス二部 部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
植木 昭一	ナビオコンピュータ株式会社 副支社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	③
竹口 伸一郎	麻生情報ビジネス専門学校 校長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	
北原 聡	麻生情報ビジネス専門学校 校長代行	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

原則:年度毎に2回実施

第1回 6月:前年度カリキュラムの実施状況について報告、業界の動向について

第2回10月:1回目を受けて修正案説明(次年度カリキュラム)

(開催日時)

平成30年度 第1回 平成30年7月6日 16:00～17:30

平成30年度 第2回 平成30年10月26日 16:00～17:30

令和元年度 第1回 令和元年6月21日 15:00～16:00

(開催日時 予定)

令和元年度 第2回 令和元年10月25日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

SDNをはじめとしたネットワーク分野の自動化が進み、ネットワークエンジニアもプログラミングスキルを伸ばす必要があるという意見があった。プログラミングスキルの要素を取り込むようにカリキュラムの変更を行った。また、カリキュラム構成の評価軸としてiCDの対応表の活用を開始した。教育課程編成委員会においてレビューしたカリキュラムに対するiCDの評価項目を使い、カリキュラムに沿った学習を行った学生の達成度評価を実施する予定にしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基礎知識を体系的に学習した学生に対して、実践能力を向上させる目的で研究テーマの選定や技術指導など、演習科目を中心に企業等と連携した授業を実施する。実践的な技術指導を受けるだけでなく、技術者と直接コミュニケーションの機会を多く持つように運用する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

ネットワーク構築演習では、実践的なネットワーク構築シナリオを用い、ネットワーク機器やサーバ機器の設計構築、運用、改善提案に関する成果物およびプレゼンテーションを総合的に判断し、学習評価を行っていただく。授業内容や評価基準については、事前に協議し、決定する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ネットワーク構築演習Ⅱ	ネットワーク管理およびセキュリティ管理手法について実際の業務の手順を使用して学習する。	興安計装株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校法人麻生塾 教職員研修規程に基づき、教職員に対して研修を行う。
 教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。
 専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。また、教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するために必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 ネットワーキングアカデミー・インストラクターズミーティング 2018(連携企業等: Training Center Japan)
 期間: 平成30年8月21日～22日 対象: 教員1名
 内容: 近畿大学における産学連携活動について、セキュリティ人材育成への取り組み、産業界におけるセキュリティ対策の取り組み、クラウドを活用した近大流ICTインフラの構築、さくらインターネットのSDN活用事例とモバイルネットワークへの取り組み

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「インストラクショナルデザインⅡ」(連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会)
 期間: 平成30年8月29日(水) 対象: 教員1名
 内容: 育成人材像に基づいた体系的カリキュラムの構築を習得する。
 3ポリシーについて、学科目標・教科目標の整理、学科カリキュラムの見直し・改善を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 Linuxシステムの導入と管理(連携企業等: 株式会社 富士通ラーニングメディア)
 期間: 令和元年8月26日～28日 対象: 教員
 内容: Linuxシステムの導入と管理について学ぶ。
 研修名 AWS Academy Educator フォローアップ研修(連携企業等: アマゾンウェブサービスジャパン株式会社)
 期間: 令和元年7月26日 対象: 教員
 内容: AWSを利用したクラウド業種の内容について学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「3つのポリシーの策定・運用実践」(連携企業等: 先端教育機構)
 期間: 令和元年9月11日(水)、令和元年9月25日(水)、令和元年10月30日(水) 対象: 教員
 内容: 教育の質保証における3つのポリシーの重要性及び関連性について理解するとともに、その策定や運用方法を実習やケーススタディなどを通じて学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会では教育活動の成果(目標値)が全教職員に周知されていることについて良い評価をいただいた。教育達成度の評価には客観的視点による評価が求められている。ネットワーク・セキュリティ科では学外のコンテストに参加することで習得した技術力の客観的な評価を得る機会として活用することにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中西 はるみ	情報工学科在校生 保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	保護者
中園 晴久	平成6年度情報経理科 卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	自治会長
大山 明	久留米市外三市町高等学校組合立 三井中央高等学校 学校長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	高等学校校長
牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会 株式会社 サンレイズ 企画調査委員会 委員長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
荒井 秀和	Training Center Japan 事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
馬場 伸一	NPO法人 QUEST 事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
小林 憲一	小林憲一税理士事務所 所長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岩永 茂敏	リコージャパン株式会社 福岡支社 MA営業部 公共担当室長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム マーケティング営業戦略部 部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
福田 史裕	株式会社マトリックス 福岡開発室 技術開発課 課長次席	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

森 瞭維智	株式会社FOREST Hunting One 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
小林 浩康	株式会社プロジェクトスタジオQ 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
河原 洋	株式会社studio A-CAT 福岡支社 支部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
矢野 修作	株式会社ディーゼロ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(**ホームページ**) ・ 広報雑誌等の刊行物 ・ その他())

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abcc/2019/hyoka.pdf>

公表時期: 令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者、保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、5つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(**ホームページ**) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/abcc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 ネットワーク・セキュリティ科) 平成30年度入学生 ※平成31年度より募集停止															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ICT概論A	社会人として必要なICTの基礎を学習する、ITパスポート試験の合格を目標とする	1前	60		○			○		○		
○			ICT概論B	社会人として必要なICTの基礎を学習する、ITパスポート試験の合格を目標とする	1後	90		○			○		○		
	○		ネットワーク I A ※B,※C	CCNA R&S Introduction to Networks	1前	120		○			○		○		
	○		ネットワーク I B ※B,※C	CCNA R&S: Introduction to Networks	1後	120		○			○		○		
○			情報セキュリティ概論 I	SEA/Jの教材を使用し、情報セキュリティ全般について学習する	1後	60		○			○		○		
	○		ITリテラシー ※B,※C	PCコンポーネント、ソフトウェアインストール、ネットワーク、セキュリティなどのITの基本的な知識とスキルを身につける	1前	60		○			○		○		
○			情報セキュリティ概論 II	情報及び情報システムを安全に活用するために、情報セキュリティが確保された状況を実現し、維持・改善する技術を学習する	2前	84		○			○		○		
	○		ネットワーク II A ※B,※C	CCNA R&S: Scaling Networks	2前	140		○			○		○		
	○		ネットワーク II B ※B,※C	CCNA R&S: Connecting Networks	2後	90		○			○		○		
○			クラウド概論	ビジネス、または技術的側面から見たクラウドコンピューティングの意義やクラウドの導入によるメリット/デメリットを学習します	3前	56		○			○		○		
○			技術英語	RFCの原文を読み、プロトコルの内容をドキュメント化することで、プロトコルの理解を深める	3後	60		○			○		○		
	○		高度 ネットワーク I A ※B,※C	マルチレイヤスイッチング(レイヤ2およびレイヤ3スイッチング技術)	3前	140		○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		高度ネットワークⅠB ※B	大規模ネットワークで使用する高度なルーティング技術	3後	150		○			○		○		
	○		ネットワークセキュリティ ※C	セキュリティインフラの開発、ネットワークの脅威や脆弱性の認識、セキュリティ上の脅威の低減に必要な技術を学習する	3後	150		○			○		○		
○			ネットワーク応用技術	モバイルコンピューティングを用いたICT環境の提案・構築に必要な技術を学習する	3前	56		○			○		○		
○			技術文書	手順書と報告書の理解、作成が出来るようになる	3前	28		○			○			○	
		○	情報処理試験 春期対策ⅡA	春期情報処理試験対策を行なう	2前	48		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅡA	秋期情報処理試験対策を行なう	2前	32		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅡB	秋期情報処理試験対策を行なう	2後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅡB	春期情報処理試験対策を行なう	2後	24		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅢA	春期情報処理試験対策を行なう	3前	48		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢA	秋期情報処理試験対策を行なう	3前	32		○			○		○		
		○	情報処理試験 秋期対策ⅢB	秋期情報処理試験対策を行なう	3後	50		○			○		○		
		○	情報処理試験 春期対策ⅢB	春期情報処理試験対策を行なう	3後	24		○			○		○		
○			サーバオペレーション演習ⅠA	管理者として必要なWindowsのコマンド操作を学ぶ	1前	30			○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			サーバオペレーション演習ⅠB	Linuxの基礎知識や主要なコマンドを理解する	1後	90			○		○		○		
○			ネットワーク構築演習ⅠA	Cisco ICND1程度の技術を用いてネットワーク設計の演習および、テストを行なう。	1前	30			○		○		○		
		○	ネットワーク構築演習ⅠB ※B,※C	Cisco ICND1程度の技術を用いてネットワーク設計の演習および、テストを行なう。	1後	60			○		○		○		
○			プログラム入門	プログラムが動作する原理を理解し、簡単なプログラムが作成できるようになる	1前	60		○			○		○		
○			データベース構築演習	OSS-DBを使用し、データベースサーバのインストールからチューニングまでを学習する	2後	60			○		○		○		
○			サーバ構築演習ⅠA	Linuxでのサーバ構築と基本的なシステム管理ができるようになる	2前	56			○		○		○		
○			サーバ構築演習ⅠB	Linuxでの各種サービスの実装と管理ができるようになる	2後	60			○		○		○		
		○	ネットワーク管理演習 ※A,※B	運行管理、障害時運用方式、性能管理、構成管理といったネットワーク運用管理を演習を通して学習する	2後	90			○		○		○		
		○	アプリケーションセキュリティ ※C	HTTPの詳細を理解し、Webアプリケーションに対する攻撃手法およびPHPを中心としたハードニングについて学習する	2後	90			○		○		○		
○			Webアプリケーション演習	PHPを用いてDB連携を行うWebアプリケーションの作成と通じてWebサービスの仕組みを理解する	2前	56			○		○		○		
		○	ネットワーク構築演習Ⅱ ※B,※C	Cisco ICND2程度の技術を用いてネットワーク設計の演習および、テストを行なう。	2後	60			○		○		○	○	○
○			サーバセキュリティ演習	Unix系のシステムのセキュリティを高める手法を学ぶ	3前	84			○		○		○		
○			ネットワーク構築演習Ⅲ	数年後には利用が拡大するIPv6をネットワークデバイスやサーバに設定し、運用する方法を学習する	3後	90			○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作A	ネットワーク、セキュリティ、サーバ構築・管理についてテーマを決め、グループで調査、実証、ドキュメント化を行う	3前	28			○		○		○		
○			卒業制作B	ネットワーク、セキュリティ、サーバ構築・管理についてテーマを決め、グループで調査、実証、ドキュメント化を行う	3後	150			○		○		○		
○			一般教養ⅠA	国語と数学の基礎能力アップを図るまた、SPI対策を行う	1前	30			○		○			○	
○			一般教養ⅠB	国語と数学の基礎能力アップを図るまた、SPI対策を行う	1後	30			○		○			○	
○			ビジネスコミュニケーションⅠ	グループ内でのコミュニケーションのとり方について学ぶ	1前	30			○		○			○	
○			GCBⅠ	グローバルで活躍できる人材を目指し、感謝と志というテーマを中心に学習する	1前	16			○		○			○	
○			ビジネスコミュニケーションⅡ	プレゼンテーション技法を学ぶ	2前	28			○		○			○	
○			一般教養ⅡA	前期は国語、数学、英語の実力アップを図る、後期は適正試験(SPI,CAB)対策、時事対策	2前	28			○		○			○	
○			一般教養ⅡB	前期は国語、数学、英語の実力アップを図る、後期は適正試験(SPI,CAB)対策、時事対策	2後	60			○		○			○	
○			就職実務ⅠA	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う	2前	28			○		○			○	
○			就職実務ⅠB	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う	2後	60			○		○			○	
○			GCBⅡ	グローバルで活躍できる人材を目指し、感謝と志というテーマを中心に学習する	2前	16			○		○			○	
○			ビジネスマナー	ビジネスマナーの習得および、オフィスでの状況対応能力を身につける	3前	28			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅱ	自分の将来を考え就職に結びつける。履歴書の書き方や面接の練習なども行う	3前	28		○			○		○		
○			ビジネスソフトウェア演習	Windowsの基本操作とOfficeの使用方法を学ぶ	1前	30			○		○			○	
	○		ネットワークⅠA ※A	CCNA R&S Introduction to Networks	1前	30		○			○		○		
	○		ネットワークⅠB ※A	CCNA R&S: Introduction to Networks	1後	30		○			○		○		
	○		ネットワークⅡA ※A	CCNA R&S: Scaling Networks	1前	150		○			○		○		
	○		ネットワークⅡB ※A	CCNA R&S: Connecting Networks	1後	90		○			○		○		
	○		高度ネットワークⅠA ※A	マルチレイヤスイッチング(レイヤ2およびレイヤ3スイッチング技術)	2前	140		○			○		○		
	○		ネットワークセキュリティ ※A	セキュリティインフラの開発、ネットワークの脅威や脆弱性の認識、セキュリティ上の脅威の低減に必要な技術を学習する	2後	150		○			○		○		
	○		高度ネットワークⅡA ※A	高度なIPアドレッシングとルーティングを使用して、拡張性とセキュリティ機能を備えたルーターをLAN、WAN、IPv6に接続する能力を身につける	3前	140		○			○		○		
	○		高度ネットワークⅡB ※A	BGP4を用いた高度なルーティング方法を学習する	3後	150		○			○		○		
	○		ネットワーク構築演習Ⅱ ※A	Cisco ICND2程度の技術を用いてネットワーク設計の演習および、テストを行なう。	1後	60			○		○		○	○	○
合計					43科目		2730単位時間(単位)								

選択必修科目については、※A群、※B群、※C群のいずれかを選択する

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 卒業基準検定を取得していること。 学年の出席率が90%以上であること。 学生としてふさわしい生活態度であること。 	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週